					1111 1 1				
山名	神崎川・濱	〔近江市)		山行名		8月例会山行			
ルート	京田辺→八日市 IC→池田キャンプ場 P→関電取水堰堤→入渓点→巨岩・絶景地点→下山・瀬戸峠林道→池田キャンプ場 P→京田辺								
山行日	2 0 2 0			天 候		晴れ後雨			
参加者	りーダー: 小川サブリーダー:西川 (洋)参加者男性:山下 (隆)・田中・木田・丸山 (顧問)参加者計 10名								
ルート概略図			コースタイム						
			地 名		時:分	地 名		時:分	
巨岩・絶景地点・昼食 入渓点 小滝 関電・取水堰堤 瀬戸峠林道 取水堰堤河原 池田キャンプ P		京田辺	発	06:00	巨岩・	着	11:15		
			着		絶景点	発	11:51		
		池田キャ	着	08:10	小滝	着	12:35		
		ンプ場P	発	08:22		発			
		取水堰	着	9:30	林道	着	13:20		
		瀬戸峠林道	堤・河原	発	10:04		発	13:45	
		入渓点	着	10:10	池田P	着発	14:30 14:45		
					京田辺	着	16:45		

昨年に引き続き、神崎川の沢登りを計画した。参加者10名の内、5名は神崎川が初めてでその内泳げない方が2名という構成である。8時過ぎに着いたが今年も無料の駐車場は満杯で少し離れた空き地を見付けて駐車する。

この神崎川の沢登りの欠点は入渓点まで約1時間、林道を歩かなければならないという点にある。但し、キャニオニングツアー等で参加すれば車で入渓点まで登れるが1万円程度の費用(現地集合・解散)が必要となるが・・・参加者の皆さんは汗を掻きかき、又文句を言いながらも沢に入った時のスガスガしさを頭に描いてモクモクと登る。やっと入渓点である関電の取水堰堤の下の河原に到着。ここで沢靴に履き替えるが、気の早いTさんSさんは早速深間を見付け泳ぎ出す。

堰堤の左岸を高巻きして真の入渓点に降りると皆さん汗をかいていたので早速ジャブジャブと水の中に入る。然し、水深が深く、最初から泳がなくてはならず、キャキャ言いながら水しぶきを上げる。昨日、三重地方に大雨警戒警報が出ていた所為かいつもより水量も多く流れも速いので押し流され進むのに時間が掛かる。沢登りで注意する点は同じコースでも水量が多い場合は格段に難しくなることである。又、今回初めてであるが流れのすぐ横の岩にヒルが3匹鎌首を持ちあげクネクネ踊っていた。知らずに手を置けばヒルにやられるところだった。ヒルも流されてきたのかな???

その後、1時間余り掛けて、小滝を登り深間泳ぎを繰り返しながら今日一番の絶景地点である白い巨岩とエメラルドグリーンが美しい滝に到着。この巨岩をパスするには手前の滝つぼを 10m以上泳がなくてはならないが、滝に近づくにつれ、流れが急で押し流される。何とか滝に近づけたとしても流れが早く脚が掛からない。悪戦苦闘しながら巨岩の上に出ると爽快な気分になる。泳げない女性2人はリュックを浮輪代わりにして、ロープで引き上げて貰うが死にもの狂いの形相で悪戦苦闘の末、やっと岩に辿り着く。沢を下ってきたツアー会社の一行は滝つぼに飛び込んだり、左岸から右岸に掛けているワイヤロープを伝い中ほどにくるとロープを離し、滝つぼに飛び込んだりして遊んである。皆20代の若い男女が中心である。

ここで昼食をとったが急にゴロゴロとカミナリが鳴り出し、暗くなり雨が降りだしたのでエスケープルートの瀬戸峠林道に登り、下山することにした。林道に辿り着き、Mさんが沢靴を履き替えている時判ったがスパッツの下にヒルが入り込み血を吸って大きくなっており離れない。虫用スプレーを吹き付け離したがこの際、無理に引き剥がそうとしては被害が大きくなるので注意が必要。

ヒヤリハット: なし

一口感想文 玉置 安世

沢登りの説明会で写真をみて行きたいなぁと思いましたが、水深が深いとのこと。 全く泳げない私はあきらめていました。ライフジャケット・浮き輪?浮く事ばかり考えていました。

結局ザックに入れたゴミ袋にお世話になりました。ザックが浮くのですね。すごい!

深いところでロープを出して下さった方、手を出 して引っ張って下さった方、運転して下さった方ほ んとに有り難うございました。

水も白い岩に映えてきれい。水流が早くて流され そうになるも耐えて踏ん張りました。来年も企画し て下さい。

沢に入るまでの行き帰りの登りがきついですね。

雷怖かったです。涼しい時を過ごす事が出来ました。ありがとうございます。



一口感想文

山下 隆

昨年夏、生まれて初めての沢登りを2回経験し、今回は3回目で、昨年経験した神崎川。白い岩と清流は行きたくなる。

数日前発表された日本男性の平均寿命81.6才を超えても沢登りに参加できる幸せを感じる。ワイフにはいつものことだが「無理をしないでね!」で送り出される。

登山に比べて沢での事故の頻度は高いので、急流はなるべく避けての遡行を心掛けた。比較的若くて足の長い連中はあえて急流にチャレンジして楽しんでいるも、それは避けてその横の第2の流れを選んだり、ベテランさんに足の置き場を教えてもらいながら水の感触を楽しむ。

胸までの深みにはいると胸がキュントなる。この暑い夏場 にヒヤリと寒気を感じること自体は贅沢なものだ。

又、ハーネスの練習はするも、今回は初めて実戦で使う! 仲間のお陰で足場の少ない岩を超えられた。

腰位までの深さで、川底が砂利の場所に出あったり、流れに小さな魚影を発見したりすると、しばし 緊張がとけた。

今回はヒル対策やアブ対策が前回より入念だったためなのか、天候のせいで彼らの動きがにぶかった のかしれないが、献血や虫さされに合わずに助かった。

しかし、沢から上がっての林道出会いで、靴下をはき替える時は、ヒルにやられてはないかとドキド キだった。

駐車場までの林道歩きの途中、久しぶりに聞いたヒグラシの声は季節の移ろいを思わせて印象的だった。CL, SL や皆さんのお陰で楽しい沢歩きが出来たことに感謝の一日でした。



一口感想文 北條 都

今年、沢登りデビューするため沢靴を買ったので、 使わないともったいないとも思い、神崎川の沢登り に参加した。

泳ぎは少し出来ると思っていたのに、長らく泳いでいないのと、川の流れに逆らって歩いたり、時々泳がないといけなかったりと思ったよりも非常に疲れた。

昼食の時、寒くてたまらず寝そべったら海水浴の 時のような岩の温かさがとっても気持ち良かった。

CL、SL を始め男性陣、ロープで引っ張って貰ったり膝を借りたり、いろいろサポートありがとうございました。



神崎川一番の景勝地



ロープが張ってあり、 真中でダイビング



